

| 受験方式

一般選抜	教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IB	他	備考
総合政策	1~2	400	(200)	-	-	-	-	(200)	200		[他]小論文、[英,数]1つ選択(英+数も可)
環境情報	1~2	400	(200)	-	-	-	-	(200)	200		[他]小論文、[英,数]1つ選択(英+数も可)

| 志願者推移 (数値は集計日時点による)

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較 (△:増加% ▼:減少%)

一般選抜	20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
総合政策	275	3,323	225	3,164	△16%	
環境情報	275	2,999	225	2,864	△17%	

| 入試問題分析

| 英語

入試問題分析	形式、レベルとも例年と同様。高度な語彙力と読解力が要求される。英文の語彙レベルが標準的な早慶レベルに比べると高いので、過去問でしっかり対策しておきたい。解答しづらい問題も一部あるので、ある程度は見切りをつけながら過去問を行うことが重要になる。
--------	---

| 数学 (総合政策学部)

入試問題分析	大問数は6で変化なし。大問1ではソーシャルディスタンスを題材にした確率の問題、大問2はサッカーのシュートを題材にした三角比・三角関数の問題、大問6では会社が従業員の努力水準を高めるための条件を求める問題が出題された。このように、実生活の問題とリンクした問題はこの学部でも頻出である。問題そのものは昨年度よりやや易化した。 平面図形の問題、期待値の問題はこの学部では頻出である。環境情報学部と共に、数学Bの「期待値」までは毎年出題が見られるため、必ず問題集などで確認をしておくこと。ぱっと見は見えたことが無い設定に見える問題が多いが、しっかり進めていくと最終的には典型問題に落ち着くことが多い。
--------	--

| 数学 (環境情報学部)

入試問題分析	大問数は6題で変化はなかった。難易度・分量ともに昨年並みであった。今年度も大問2、3は解きやすい反面、大問4は漸化式を導きづらく、大問6はヘヴィーな計算を求められる。大問ごとの難易度がバラバラなため、まずは基本的な問題を絶対に落とさない、見た瞬間に解けるレベルまで仕上げておくことが求められる。 大問ごとの難易度のばらつきが大きいため、まずは平易な問題を絶対に落とさないことが必要。そのうえで、難問にも根気強く取り組むことが求められる。むやみやたらな難問ではなく、それまでの誘導がしっかりとヒントになっていることも多い。また、総合政策学部と同様に、現実の事象に対して数式を考えていくことも多い。過去問で対策をしていくこと。
--------	---

| 小論文 (総合政策学部)

入試問題分析	全3問、6つの資料を踏まえ受験生が自ら解決すべき「課題」を設定し、「改善策」を提案する。課題は図示が、改善策は800字以内の記述が求められる。設問全体を通じて「資料の理解(要約)」「問題発見」「問題解決」の力が試される点は例年通り。大量の資料(文章+図表)を理解し、そこから「問題」を発見し「問題解決策」を提示する力が必要となる。試験会場で0から発想していくことはかなり難しいため、日頃から時事問題に関する資料に触れ、現代社会における未解決の問題と、それに対する解決策の実践例などをアイデアの材料として収集しておくことも有効。
--------	---

| 小論文 (環境情報学部)

入試問題分析	大問三題、①: 数学問題/②: 「不条理」をテーマにした「問題発見」「問題解決策」の提示。 ①は新傾向だが、難易度は高校基礎レベル。②は「問題発見力/解決力」を試すという従来通りのコンセプトに基づく出題だが、文章化よりも「図示」を重視した出題になっている点も21年度の特徴。「問題発見力/解決力」が試されるという点では総合政策と共通しているが、環境情報学部ではそれに加え「アイデアをデザイン(図示)する力」も近年試されている。総合政策学部と同様、日頃から時事問題に関する資料に触れ「問題発見→解決策立案」の実践例などをストックすると同時に、それをフローチャートなどにデザインする練習などをしておくことも重要。
--------	--